

図書館員のおすすめ本



みなさんには、好きな物語や印象的だった本はありますか？
今回は図書館員が中高生だった頃に読んで、心を動かされた本をピックアップしました。

『破戒 改版』

島崎藤村／著 新潮社 1987年

ISBN:978-4-10-105507-7

「^{うしまつ}丑松は絶望した人のように笑った。」という一文は今でも忘れません。部落出身の丑松という青年が父との戒めを破り、出身を明かしてしまうというのが大筋で、当時の社会的な背景や登場人物の表情などがはっきりと描写されています。私は高校生のときに課題図書として読みましたが、この本がきっかけで近代日本の文学に興味を持ちました。ぜひ一読してみてください。



『きみの友だち』

重松清／著 新潮社 2005年 ISBN:978-4-10-407506-5

事故をきっかけに松葉杖が必要になった恵美ちゃんと、体の弱い由香ちゃん。それぞれ違う理由で傷ついた2人は、互いに支え合いながら学校生活を送っていきます。私は中学生のとき、何か事件があったわけではありませんでしたが、周りの反応に合わせる事が多く、もやもやした気持ちで過ごしました。この本を読んで、恵美ちゃんや由香ちゃんをはじめとした登場人物が、互いにぶつかり合いながら日々を送っている様子にたくさん励まされました。何か不安を抱える人におすすめの一冊です。



今回の特集は「ヴィラン（悪役）が魅力的な物語」でした。
ときに主役を超えて人気を集めることも多い悪役。一度読んだ物語でも、悪役に注目してみると新しい発見があるかもしれませんね。
新しいお気に入りの悪役が見つかりましたら幸いです。



2025年夏

小竹図書館 中学生・高校生用図書館だより

たけのこ通信

練馬区立小竹図書館 〒176-0004 練馬区小竹町2-43-1

電話番号:03-5995-1121 指定管理者:ハートフルサポート共同事業

ヴィランが魅力的な物語

正義のヒーロー（主人公）と対になるような存在のヴィラン（悪役）。彼らは、物語にアクセントをつける重要な役割を果たしています。
今回はそんなヴィランたちにスポットをあてて、本の紹介をします。



モリアーティ教授／シャーロック・ホームズのライバルにしてロンドンの犯罪組織の裏で暗躍する黒幕

『モリアーティ』

アンソニー・ホロヴィッツ／著 駒月雅子／訳 KADOKAWA 2015年
ISBN:978-4-04-102404-1

『シャーロック・ホームズの回想』

コナン・ドイル／著 駒月雅子／訳 KADOKAWA 2010年 ISBN:978-4-04-298214-2

世界一有名な探偵、シャーロック・ホームズの宿敵であり、ロンドンの犯罪組織の王モリアーティ教授。近年はドラマや映画、漫画などでも登場し、ホームズの永遠のライバルとして、多くの人に愛されています。

今回は、モリアーティ教授の初登場作品にして、二人の最後の対決を描いた『最後の事件』（『シャーロック・ホームズの回想』収録）また『最後の事件』から直後の話を描いたコナン・ドイル財団公認作品で、ミステリー界の名手アンソニー・ホロヴィッツ作『モリアーティ』を紹介します。モリアーティ教授とは一体どんな人物なのか、そのルーツを辿りながら、ミステリーの世界に触れてみてください。

魔王／道を行く親子を誘う不気味な声

『魔法つかいの弟子 ゲーテショートセレクション』

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ／作 酒寄進一／訳

ヨシタケシンスケ／絵 理論社 2021年 ISBN:978-4-652-20412-2

この本には、ドイツの詩人ゲーテが書いた詩や短い物語が収録されています。その中の1つ『魔王』は、子どもと父親が夜遅く風を切つて馬車に乗っている場面を描いた詩です。「魔王」は、自分の世界に子どもを連れて行こうとして誘います。その後、子どもは……。作曲家シューベルト《魔王》の歌詞にも選ばれた詩を、実際に聴きながら読むと、さらに楽しめるかもしれませんよ。

怪人二十面相／昭和の時代に一大ブームを起こした大怪盗

『怪人二十面相 少年探偵(1)』

江戸川乱歩／作 藤田新策／装丁・画 ポプラ社 2005年

ISBN:978-4-591-08412-0

「昭和の少年少女たちの間でもっとも有名な悪役は？」と聞いた時、真っ先に名前が上がる悪役の一人、それが怪人二十面相です。華麗な手口でお宝を盗む一方で殺人や暴力を嫌い、時には人を救つてみせる怪人二十面相の姿は、当時、多くの人を惹きつけました。文豪・江戸川乱歩が作り出した、怪人二十面相と探偵・明智小五郎の最初の対決を描いた作品です。

西の悪い魔女／さまざまな魔法を操り、主人公ドロシーたちの旅の邪魔をするおそろしい魔女

『オズの魔法使い』

ライマン・フランク・ボーム／著 河野万里子／訳

にしざかひろみ／絵 新潮社 2012年 ISBN:978-4-10-218151-5

ドロシーは、カンザスの大草原の真ん中に住んでいました。大きな竜巻が来た次の日、目を覚ますとそこはオズの国でした。ドロシーは、エメラルドの都にいる魔法使いのオズに会いに行くことになり、その途中で西の悪い魔女にも遭遇します。西の魔女は、話題の映画『ウィキッド』の主人公として取り上げられています。映画の原作を読んでみませんか？



白い魔女／ナルニアの世界を雪に閉じこめる支配者

『カラー版ナルニア国物語 ライオンと魔女』

C.S.ルイス／作 瀬田貞二／訳 Pauline Baynes／画

岩波書店 2005年 ISBN:4-00-116371-3

ルーシィが衣装だんすの中に潜り込むと、そこには雪が降り積もる真っ白な国が広がっていました。この国はかつてライオンのアスランが幸せな国として統治していましたが、強力な力を持つ白い魔女が、国を永遠の冬へと閉ざし、圧政を敷いていました。魔女の策略により、ルーシィの兄弟・エドモンドは窮地に陥りますが……。強者たるヴィランの存在は、ファンタジー世界を楽しむ一つのポイントになります。



「ヴィランについてもっと知りたい」「悪役がたくさん出てくる話が読みたい」という方にはこんな本も

『Fate／Zero[1] 第四次聖杯戦争秘話』

虚淵玄／著 星海社 2011年

ISBN:978-4-06-138903-8 ほか

7人の魔術師と彼らに召喚された英雄たちが2人1組になり、どんな願いでも叶える力をめぐって争います。本作の主人公・衛宮切嗣は平和のために聖杯戦争に願いをかけますが、多くを救うために少数を切り捨てる、王道の主人公とは違った冷酷さを持ちます。衛宮の他6人の魔術師と英雄たちは「敵」にあたりますが、彼らもそれぞれの信念や思惑のため、最後の1組になるまで血を争う、ハードボイルドな作品になっています。ダークヒーローと敵の戦闘、そしてそれぞれの結末とは……。

『悪役(ヴィラン)の心理

クリエイターのためのキャラクター創作マニュアル』

ハンミン／著 パクソンミ／著 ユジヒョン／著 黒河星子／訳

翔泳社 2024年 ISBN:978-4-7981-8527-9

魅力的な悪役はどのようにしてできあがるのでしょうか？ 彼らの心理状態や性格を掘り下げ、どのようなタイプのキャラクターが、どのようにして物語に影響を与えていくのかを探ります。物語を創作してみたい方にもおすすめの一冊です。